AI ガバナンスと産業政策

―リスクと制度デザインに関する考察―

〇実積寿也、Toshiya Jitsuzumi
Keywords：AI ガバナンス、経済学、外部性、産業政策、情報の非対称性

１　目的

生成 AI をはじめとする AI 技術の急速な発展と普及は、情報通信分野にとどまらず、経済社会全体に広範な影響を及ぼしつつある。他方、その普及は、情報の非対称性、外部性、寡占、規模の経済といった伝統的な市場の失敗を複合的に伴うのみならず、リスク制御困難性や説明不可能性といった技術特性に由来する新たな制度設計上の課題を顕在化させている。本研究は、AI ガバナンスおよび AI 産業政策に関して、伝統的なミクロ経済学の枠組みに基づく経済理論的分析を行い、政策介入の正当性、ならびに望ましい制度設計の在り方を明らかにすることを目的とする。

２　方法

まず、AI ガバナンスに関し、情報開示義務、説明責任、リスク分担設計を含む主要な規制措置について、情報の非対称性および外部性に基づく市場の失敗論の観点から位置づけ、政策介入の意義と限界を検討する。次に、生成 AI に特有のスケーリング則や外部性構造に着目し、過小投資問題の発生メカニズムを理論的に整理した上で、公共的支援や補完的政策の必要性について考察する。さらに、国際的な規制競争、産業政策競争、囚人のジレンマ構造に着目し、AI をめぐる国際制度設計上の課題とその克服に向けた対応策を検討する。

３　結果

AI ガバナンスにおいては、情報の非対称性や外部性の存在から、情報開示義務、説明責任、リスク分担設計を中心とした政策介入が経済的に正当化される。AI のリスクについては、技術特性上、完全な予見・制御が困難であり、社会全体によるリスク分担の枠組みが不可欠である。また、生成 AI の開発に伴うスケーリング則および外部性の存在により、投資インセンティブの低下や過小投資が生じやすく、産業基盤整備や研究開発支援といった補完的な産業政策が必要となる。加えて、国際的には規制競争や補助金競争を通じて囚人のジレンマ的状況が顕在化しつつあり、国際的協調の仕組みが不可欠である。

４　結論

AI という新技術をめぐる政策介入においては、ハードローとソフトローを適切に組み合わせ、国際的整合性を確保しつつ、信頼（トラスト）形成と過小投資の是正という二重の課題に対応することが重要である。特に日本においては、従来からのソフトローを中心としたアプローチの柔軟性を活かしつつ、国際的規範形成との整合性を確保することで、AI 技術の健全な発展と社会実装を促進する制度設計が求められる。

【主要参考文献】

羽深宏樹（2023）『AI ガバナンス入門：リスクマネジメントから社会設計まで』早川書房.
実積寿也（2025）「AI 規制フレームワーク：日本型モデルの可能性」情報法制研究所、JILIS レポート（ディスカッションペーパー）. https://www.jilis.org/report/2024/jilisreport-vol6no2.pdf